



平成29年度
東北大学大学院教育学研究科
震災子ども支援室 “S-チル”

年次報告書

震災子ども支援室は、ある個人の年1200万円10年間の寄附を原資とし、
その他多くの方々の寄附をいただいで活動しています。



東北大学大学院教育学研究科
震災子ども支援室 “S-チル”

〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1
TEL&FAX : 022-795-3263
E-MAIL : s.children@sed.tohoku.ac.jp



平成29年度 年次報告書

目次

| | |
|------------------------|----|
| ■ 概 要・スタッフ | 01 |
| ■ 活動内容 | |
| I. 当事者支援 | |
| 1. 相談実績 | 03 |
| 2. 里親サロン | 08 |
| 3. 学習支援 | 09 |
| II. 支援者支援 | |
| 1. 研修 | 11 |
| 2. 関係機関との連絡会議 | 11 |
| III. 普及・啓発 | |
| 1. 震災子ども支援室主催によるシンポジウム | 12 |
| 2. 出前授業 | 14 |
| IV. 情報収集とニーズの把握 | |
| 1. 関連自治体・団体訪問 | 14 |
| 2. 来室対応・情報交換 | 14 |
| 3. 講演会・研修会における情報収集 | 14 |
| V. 調査・研究 | |
| 1. 学会発表等 | 15 |
| 2. 論文 | 15 |
| 3. 震災こころの支援研究会（D研）主催 | 15 |
| VI. 広報 | |
| 1. 報道関係・来室対応 | 16 |
| 2. 出版物・報告書 | 16 |

平成29年度 「震災子ども支援室」活動報告

● 概要

震災子ども支援室(S-チル)は、2011年3月11日の東日本大震災で親をなくした子どもたちへの支援を願う篤志家の10年間の寄附を原資とし、その他多くの皆さまの被災地への思いを受けて活動しています。残る3年間でどのように活動していくかについて、大事なことが2つあると考えています。

ひとつは、「2011年3月11日の大震災があった地への支援」から、「2018年の今を生きる地への支援」という視点への転換です。「今、被災地に何が起きているのか」をとらえながら活動するということは、これまでも常に自身に言い聞かせてきたことでしたが、それは震災の爪痕とこころの復興の実態への注視という面が大きかったと思います。今、最終期の活動方針を見据えるにあたってあらためて挙げたいのは、その地には、震災後の経過というだけでなく、震災との関連の有無にかかわらず流れる時間があり、組み合わせあって現在の日常となっていることです。現在の問題が震災由来の問題であるかどうかを見極めることにとらわれず、総合的に今の問題に向き合っていく気持ちを持ちたいと思います。

もうひとつは、支援室の活動を振り返った結果を、関係者への倫理的な配慮内で、支援室以外の方々にもお示していくことです。こころの相談は、個人の情報やプライバシーへの守秘を前提に行っており、この方針は今後も変わりません。一方で、震災後10年間の支援活動を眺めると見えてくるこころのケアの動向があります。例えば、どの時期に何が必要とされていたか、そして時間とともにどのように推移したのかということは、今後の災害支援の重要な情報資源となるでしょう。こうした方針から、平成29年度より、震災子ども支援室(S-チル)には、これまでの相談スタッフ3名に加えて、あらたに1名の特任助教が着任しました。研究分野を担当する専任助教がスタッフに加わったことで、相談を中心とするこれまでの活動の分析や客観的な振り返りに注力することができるようになりました。

一條・加藤(2017)が阪神淡路大震災と東日本大震災後に行われたこころの相談支援活動の文献を収集したところ、集計期間1年以内の報告が多い一方で、長期的な相談支援活動の報告は極めて少ないことがわかりました。これは、そもそも長期間の活動支援が相対的に少ないということもありますが、相談活動の設置形態が大きな理由ではないかと考えられています。震災後の相談は、①震災に特化して新たに設置された活動、②通常の相談活動に一定期間につき震災相談を加えた活動、③通常の相談活動の中に震災に関わる相談が混じりこむかたちで行われていた活動があります。いずれも少なからず震災後の相談支援に貢献してきました。しかし、時間が経つにつれて、それぞれの報告書から震災のキーワードが消え、「震災後の相談」の傾向や様相を知ることが難しくなっています。先に述べたように、それは被災地の日常の姿として当然のことではありますが、その一方で、震災子ども支援室の活動が、震災支援、殊に子ども支援に特化して設置された特色を踏まえながら、活動を振り返りまとめることには、長期間に渡る震災後の経過資料という社会的意義があるのではないかと考えています。

次に、平成29年度の活動の中からいくつか具体的にご紹介いたします。

まずシンポジウムですが、今年は岩手・宮城・福島3県から高校生たちの震災関連活動に関するポス

ター発表と、被災地支援に携わる大学生ボランティアの活動報告の場としました。震災当時小学生や中学生だった子どもたちが、主役となって行う活動発表は大変活気があり、頼もしさを感じました。また、これまでの支援のバトンが下の世代に確実に繋がれていくのを感じる体験となりました。

陸前高田と石巻を会場に行われた遺児・孤児対象学習支援(しゅくだい塾)は、回を重ねるごとに参加者が増えています。毎回参加して子どもたちは、会うたびに成長が実感できる機会です。また新たに加わってくれた子どもたちは、私たち支援室スタッフや学生スタッフにとっての嬉しい出会いとなりました。

研究部門では、学生参加の研究会(震災関連の文献購読、視聴など)、学会発表と研究交流、論文発表を中心として活動しています。また、震災関係の活動を行う高校生への出前授業も行いました。高校生の研究動機を尊重し、研究としての企画、実施の助言やまとめ方の助言を行い、彼らの活動に活かしていただいています。ご希望があれば今後も実施したいと思います。

次年度の新しい取り組みとして、被災自治体への心理士派遣事業を開始します。震災当時、高校生だった方々が、親となり子育てを始める時期が近づく中、乳幼児健診、保育所巡回発達支援、保護者カウンセリング等、主に就学前のお子さんとその子育てへのお手伝いができればと思います。また、親族里親の方々のその後の想いをお聞かせいただき、「この子を育てる(2014)」の続編を作成してお渡しすることも考えています。

皆さまには、今後とも、震災子ども支援室へのご指導ご鞭撻を何卒よろしく願いいたします。

(加藤 道代)

平成30年5月5日

● スタッフ

室長：加藤 道代 (教育学研究科人間発達臨床科学講座 教授 臨床心理士)

研究員：一條 玲香 (教育学研究科震災子ども支援室 特任助教 臨床心理士)

相談員：平井 美弥 (臨床心理士・臨床発達心理士)

相談員：押野 晶子 (保健師・看護師)

相談員：大堀 和子 (社会福祉士)



平成23年3月20日 石巻市中瀬公園



平成30年2月10日 石巻市中瀬公園

1 相談実績

相談活動には、本人・関係者相談をはじめ、支援者へのコンサルテーション、情報交換やケース会議といった他機関との連携が含まれる。

● 総相談回数、ケース数及び月別相談回数

総相談回数は168回であった。前年度(平成28年度)の205回から、約2割ほど減少した。新規に受け付けたケース数は50件であった。月別相談回数は、チラシ配布後の2、3月が多くなった。

表1 総相談回数及びケース数

| | 新規 | 継続 | 合計 |
|------------|----|-----|-----|
| 総相談回数(延べ数) | 54 | 114 | 168 |
| 新規ケース数(実数) | 50 | — | — |

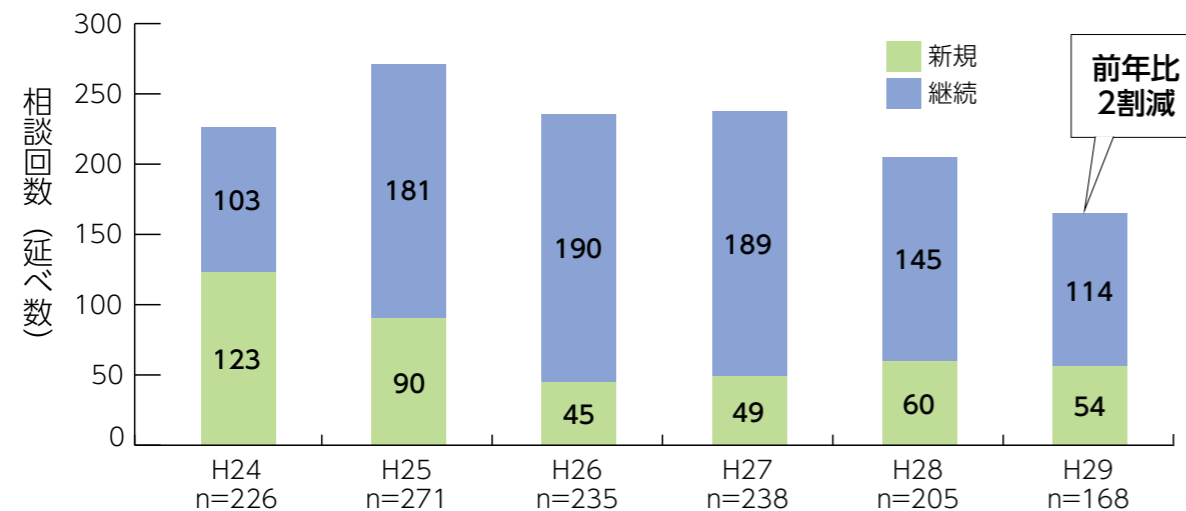


図1 総相談回数推移

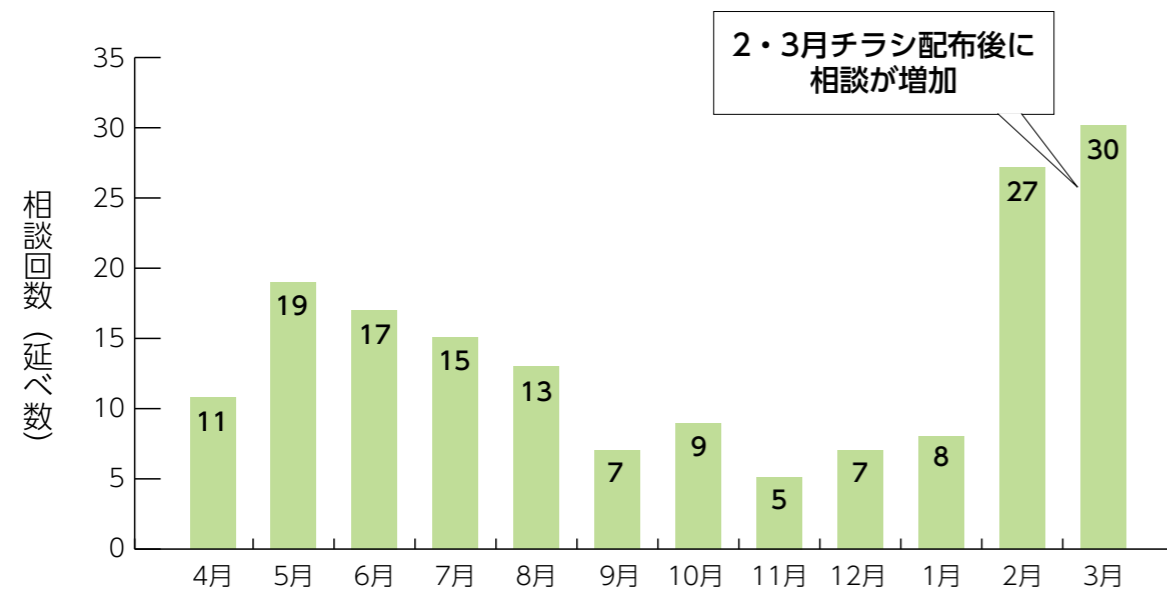


図2 月別相談回数

● 相談者地域

相談者を地域別にみると、「震災子ども支援室」が位置する宮城県からの相談が依然として圧倒的に多いが、岩手、福島からも一定数の相談がみられる。

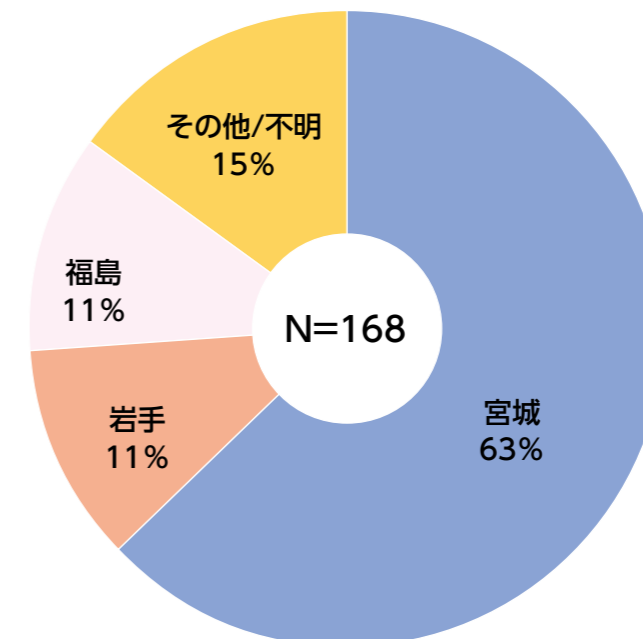


図3 相談者地域

● 相談形態

電話での相談が最も多いが、来所、メール・その他での相談の割合が増えた。

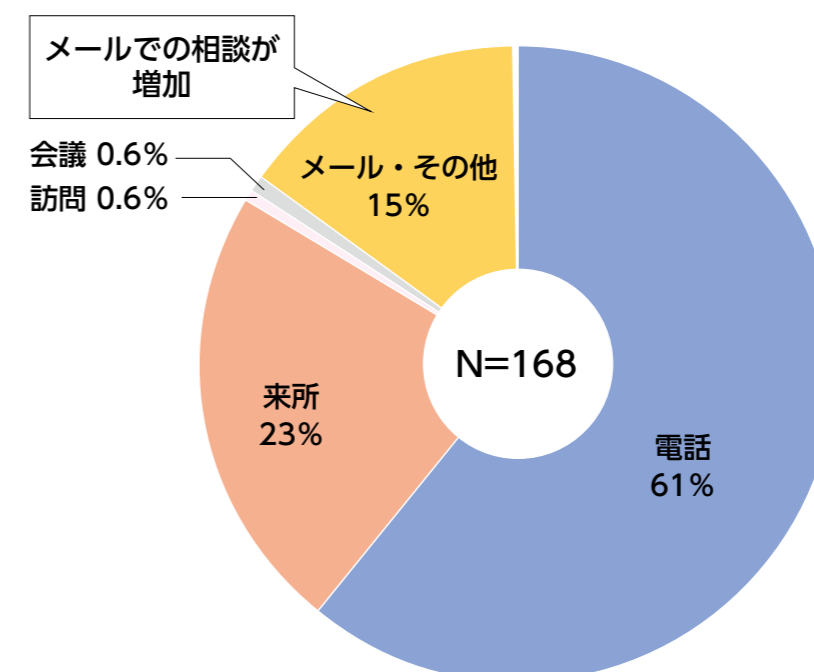


図4 相談形態

● 相談内容

相談内容(相談回数(延べ数))は、「体調・精神不調」が前年度107回から48回に減少した。一方で「その他」に分類されるいたずらなどの件数が多くなった。相談内容(ケース数(実数))では、「学校関係」が前年度24件から9件に減少した。

表2 相談内容別相談回数及びケース数

| | 体調・精神不調 | 学校関係 | 子育て・発達 | 家庭環境 | 要保護・非行 | その他 | 計 |
|-----------|---------|------|--------|------|--------|-----|-----|
| 相談回数(延べ数) | 48 | 48 | 23 | 6 | 1 | 42 | 168 |
| ケース数(実数) | 8 | 9 | 12 | 0 | 0 | 21 | 50 |

「体調・精神不調」が減少

● 相談者推移

依然として、当事者からの相談割合高い。「行政・学校・関係機関」及び「母」からの相談は減少した。一方で「その他・不明」が増加した。

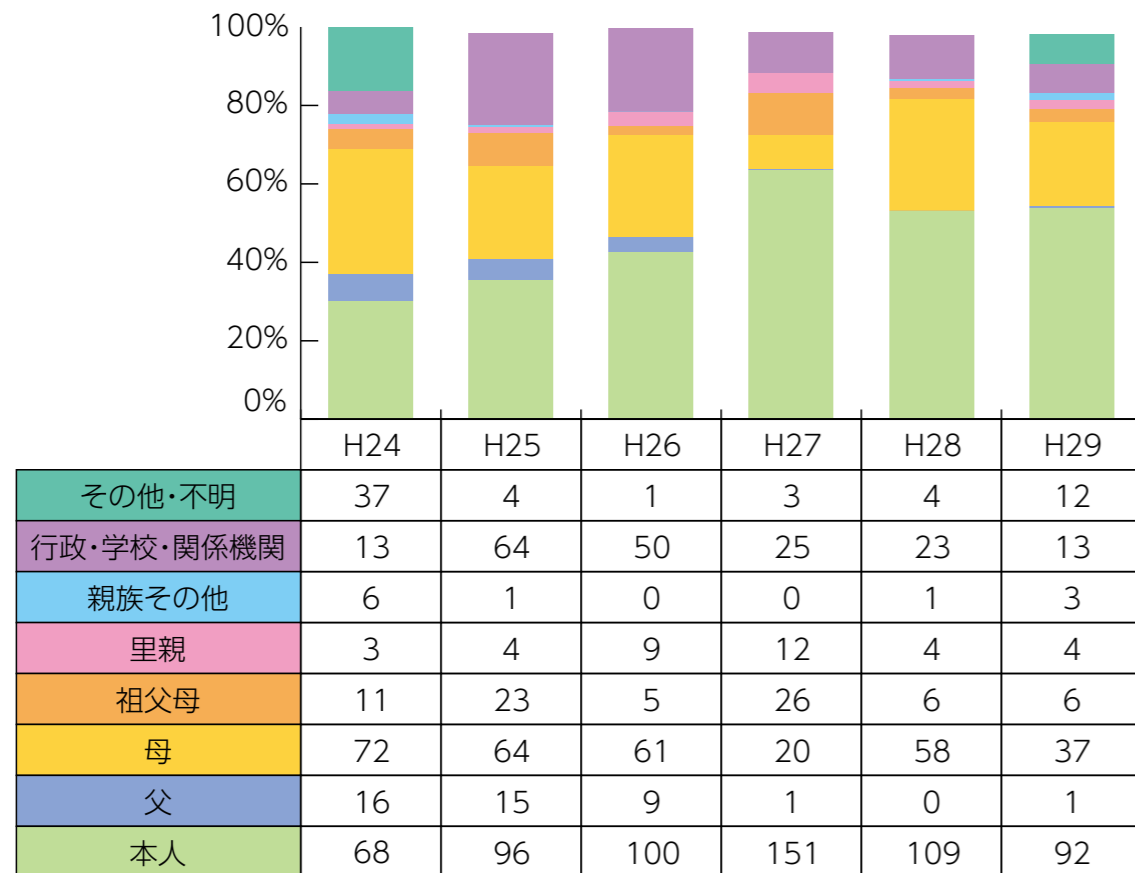


図5 相談者推移

● 本人相談

① 相談者の属性推移

震災当時子どもであった「児童・生徒」、「専門・大学生」からの相談が増加傾向にある。平成29年度は、本人相談における「児童・生徒」、「専門・大学生」の割合は、約7割を占めた。

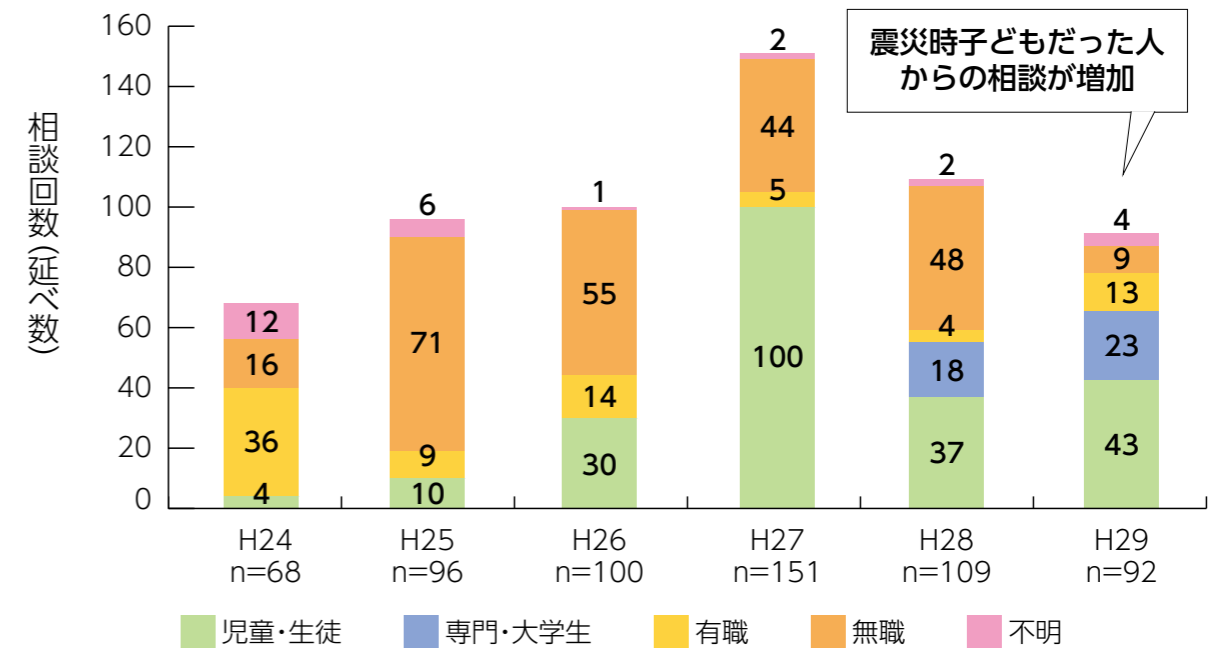


図6-1 本人相談属性推移

② 子ども(児童・生徒/専門・大学生)の相談内容詳細

「学校関係」の相談が約半数を占めている。

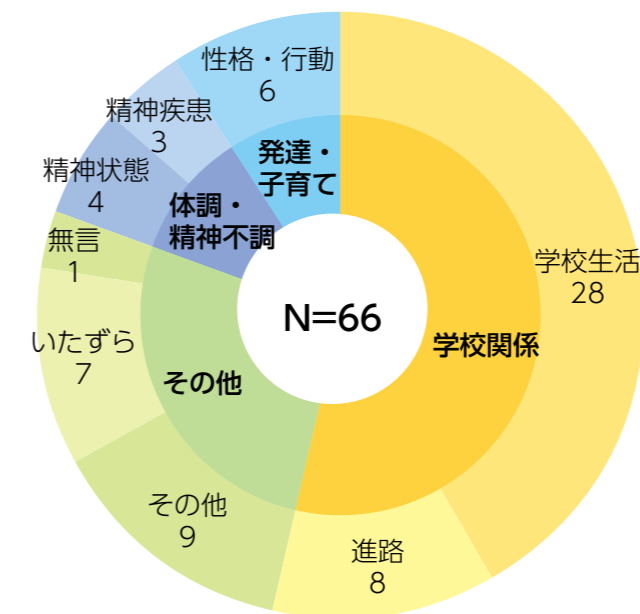


図6-2 子どもの相談内容大分類及び詳細

● 関係者（親族）相談

全体の相談回数は前年度の69回から51回に減少した。相談内容では「学校関係」が前年度15回から6回、「体調・精神不調」が前年度26回から17回に減少した。対象者の性別は、「男」が多く、対象者の属性では「小学生」と「専門・大学生」が多い。

表3-1 関係者（親族）の相談内容

| | 体調・精神不調 | 学校関係 | 子育て・発達 | 家庭環境 | 要保護・非行 | その他 | 計 |
|-----------|---------|------|--------|------|--------|-----|----|
| 相談回数(延べ数) | 17 | 6 | 17 | 2 | 0 | 9 | 51 |

表3-2 関係者（親族）相談における対象者の性別

| | 男 | 女 | その他・不明 | 計 |
|-----------|----|----|--------|----|
| 相談回数(延べ数) | 37 | 13 | 1 | 51 |

表3-3 関係者（親族）相談における対象者の属性

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 | 高校生 | 専門・大学生 | その他・不明 | 計 |
|-----------|----|-----|-----|-----|--------|--------|----|
| 相談回数(延べ数) | 1 | 21 | 9 | 5 | 13 | 2 | 51 |

大学生増加

● 行政・学校・関係機関による相談

行政・学校・関係機関相談には、コンサルテーションや情報交換、ケース会議などが含まれる。全体の相談回数は前年度の23回から13回に減少した。相談内容では「要保護・非行」が前年度7回から1回に減少した。「精神疾患を抱える「体調・精神不調」では他機関との連携が多い。

表4 関係者（親族）相談における対象者の属性

| | 体調・精神不調 | 学校関係 | 子育て・発達 | 家庭環境 | 要保護・非行 | その他 | 計 |
|-----------|---------|------|--------|------|--------|-----|----|
| 相談回数(延べ数) | 9 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 13 |

2 里親サロン

平成24年から、宮城県東部児童相談所、東部児童相談所気仙沼支所、みやぎ里親支援センターけやきとの共催で、震災孤児を預かっている親族里親に対して、親族里親サロンを行っている。里親サロンは「安心してゆっくりとくつろいでお話しできる場所」を目指したものであり、そのなかでは子育てについての話など、同じ立場だからこそ分かち合える場所として利用されている。

| | 回数 | 日時 | 参加者 | スタッフ | 場所 |
|-----|----|---------------|-----|------|----------------|
| 石巻 | 1 | 2017/5/23(火) | 3 | 6 | 東部児童相談所 |
| | 2 | 2017/8/29(火) | 2 | 5 | 東部児童相談所 |
| | 3 | 2018/2/20(火) | 2 | 4 | 東部児童相談所 |
| 東松島 | 1 | 2017/7/11(火) | 1 | 3 | 東松島市コミュニティセンター |
| | 2 | 2017/10/24(火) | 1 | 3 | 東松島市コミュニティセンター |
| 気仙沼 | 1 | 2017/6/16(金) | 2 | 4 | 本吉町公民館 |
| | 2 | 2017/9/15(金) | 2 | 5 | 本吉町公民館 |
| | 3 | 2017/11/17(金) | 2 | 5 | 本吉町公民館 |



3 遺児・孤児対象学習支援

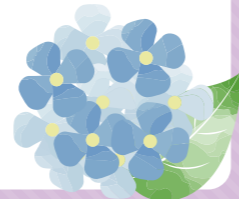
仮設住宅から復興住宅や再建された住宅へ転居し生活環境が変わった、進学して生活リズムや勉強の難易度が変わったといった、刻々と変化の中で生活する震災遺児・孤児への学習の場の提供及び、震災遺児・孤児に対する学習支援、ひとり親や親族里親に対するレスパイトや大学生スタッフとの交流を目的として、“しゅくだい塾”を行った。

“梅雨の目玉しゅくだい塾”

今回は例年の「石巻」「陸前高田」に加え、ホテル観洋を会場に「南三陸」でも開催した。南三陸では新たな取り組みとして“しゅくだい塾”と同時並行で保護者のためのプログラムを行った。保護者プログラムでは、「筋膜ケア」「こぎん刺し」「ハワイアンリボン」作成などのプログラムを実施した。



- 開催日** 2017年6月4日(日)
- 開催場所** 南三陸ホテル観洋
- 開催時間** 10時30分～15時30分
子ども=50分1コマ 勉強タイム×2、休憩時間、お楽しみ会 含む
保護者=50分筋膜ケア、90分こぎん刺し、ハワイアンリボン作り、休憩時間、お茶会
- 参加者** 小学生9人、中学生1人、保護者6人
- スタッフ** 学生スタッフ8名、あしなが育英会スタッフ3名、S-チルスタッフ3名
- 協力団体** あしなが育英会東北事務所



“夏休みしゅくだい塾 in石巻”

2015年から行っている、石巻での“しゅくだい塾”は今年で3年目を迎えた。今年は趣向を少し変えて、勉強の他にも絵画教室というプログラムを取り入れ、アトリエコパンの新妻悦子先生を講師に招き、お面作りの工作に取り組みすばらしい作品を完成させた。



- 開催日** 2017年8月4日(金)～8月5日(土)
- 開催場所** あしなが育英会 石巻レインボーハウス
- 開催時間** 8/4:11時00分～16時20分
50分1コマ 勉強タイム×4、休憩時間、お楽しみ会 含む
8/5:10時00分～16時00分
50分1コマ 勉強タイム×2、絵画教室120分、休憩時間、お楽しみ会 含む
- 参加者** 小学生18人、中学生2人 (2日間延べ人数)
- スタッフ** 学生スタッフ10名、あしなが育英会スタッフ4名、S-チルスタッフ4名
- 協力団体** あしなが育英会東北事務所

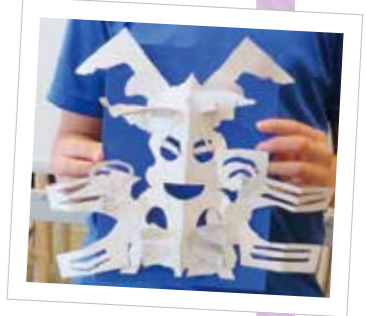


“夏休みしゅくだい塾 in陸前高田”

今年で2年目となる陸前高田での“しゅくだい塾”は、日にちを1泊2日から、2泊3日に延長し、石巻と同様に勉強だけでなく絵画教室のプログラムを取り入れた。あいにくの悪天候にも関わらず、多くの子どもたちが参加し賑やかな“しゅくだい塾”となった。



- 開催日** 2017年8月8日(火)～8月10日(木)
- 開催場所** あしなが育英会 陸前高田レインボーハウス
- 開催時間** 8/8:13時00分～17時30分
50分1コマ 勉強タイム×4、休憩時間、お楽しみ会 含む
8/9:10時00分～16時20分
50分1コマ 勉強タイム×5、休憩時間、お楽しみ会 含む
8/10:10時00分～16時00分
50分1コマ 勉強タイム×2、絵画教室120分、休憩時間、お楽しみ会 含む
- 参加者** 小学生21人、中学生2人、高校生1人(3日間延べ人数)
- スタッフ** 学生スタッフ6名、あしなが育英会スタッフ3名、**協力団体** あしなが育英会東北事務所 S-チルスタッフ2名



※夏休みしゅくだい塾(石巻、陸前高田)では、毎朝はじまりの会を行い、その中でアイスブレイク(ちょっとしたゲーム)や、帰りには終わりの会を行なった。お楽しみ会では、フルーツバスケットやパスデーライン作りゲーム、誰がオニ当てゲームなどを行ったり、ホールで身体を動かして遊んだりした。



“冬しゅくだい塾”

例年11月に行っている“しゅくだい塾”を、2月に行った。冬の寒さに負けず元気な子どもたちと、エネルギーあふれる時間を過ごすことができた。



- 開催日** 2018年2月17日(土)～2月18日(日)
- 開催場所** あしなが育英会 石巻レインボーハウス
- 開催時間** 2/17:11時00分～15時20分
50分1コマ 勉強タイム×3、休憩時間、お楽しみ会 含む
2/18:10時00分～15時00分
50分1コマ 勉強タイム×3、休憩時間、お楽しみ会 含む
- 参加者** 小学生17人、高校生2人(2日間延べ人数)
- スタッフ** 学生スタッフ9名、あしなが育英会スタッフ3名、S-チルスタッフ4名
- 協力団体** あしなが育英会東北事務所

※冬しゅくだい塾では、朝にはじまりの会を行い、その中で“あしながルール”を皆で確認してアイスブレイク(ちょっとしたゲーム)、そして帰りには終わりの会を行なった。



● 様々な活動のサポートを行った。

他機関の事業への協力や、サポートを提供したい側と受ける側のニーズに合わせた情報の提供や橋渡しを行った。

1 研修:公益財団法人 みちのく未来基金

みちのく未来基金は、2011年9月に震災遺児孤児を対象とした、高校卒業後の進学のための学費支援を目的に発足した。今年もスタッフを対象に研修を行った。

(2017年9月11日)

2 関係機関との連絡会議:南三陸町保健福祉課

南三陸町保健福祉課が主催し、震災後の子どもたちの心身の健康と健全な発達を支援していくための目的で、平成24年度から「南三陸町子ども支援連絡調整会議」運営実施への協力を行った。調整会議の実施によって、地域の各乳幼児・児童・生徒関連施設や保健福祉課が情報交換し連携を深めた。

開始当初は年2回、翌年からは年1回の開催となっていたが、参加メンバーから会議の有用性についての意見が出され、2018年度からは年2回の開催予定となっている。

(2018年1月30日)



1 震災子ども支援室主催によるシンポジウム

東日本大震災から7年目になる本年は、「東日本大震災後の子ども支援～高校生・大学生が見つめる被災地の現在～」というテーマで開催した。大学生による震災ボランティア活動と、岩手県・宮城県・福島県在住の高校生による震災や防災に関する活動に焦点を当てた。震災当時は小中学生だった子どもたちが、今、高校生・大学生となり、様々な活動を行いその取り組みから見える震災後の東北の姿、活動を通して学んだことや課題について、ポスター発表、プレゼンテーション、パネルディスカッションを通じて議論した。

ポスターセッション参加高等学校

参加高校:6校 11グループ

宮城県気仙沼高校

- ・市民の防災に対する関心を高める方法
- ・気仙沼市の防災の課題「率先避難と徒歩避難の問題!」 解決に近づくための防災ビル

菅原 碧
佐藤杏香

仙台白百合学園高等学校

- ・震災による被災者の支援(精神面・身体面)～私たちにできること～

大槻瑞香、羽鳥連、伊藤花、手塚仁菜、半澤静子、門間唯菜

岩手県立大船渡高等学校

- ・震災の記憶

新田 佑

岩手県立一関第一高等学校・附属中学校

- ・震災から学ぶ活動(避難行動調査と中学生への災害へ備える授業の実施)
- ・沿岸被災地と内陸をつなぐ活動(沿岸内陸コラボレシピの開発と普及)
- ・沿岸被災地における健康支援活動(生活不活発病予防のための農園活動)

菊地 優、鈴木里桜
亀岡紗衣、小笠原美音
高橋 美有、小澤美咲

宮城県石巻西高等学校

- ・本校の国際交流について
- ・本校の防災交流について

小山 愛、甲谷直子
高橋こころ、阿部輝、石井文乃

福島県立磐城桜が丘高等学校

- ・絆と結束の町 城山 ～ハザードマップ作りをとおして～
- ・絆と結束の町 城山 ～防災カードで変える未来～

河野息吹、曳地優莉、本間あゆみ
太田 樹、三瓶海斗



プレゼンテーション参加東北大学学生ボランティア団体

参加団体:6団体

地域復興プロジェクト“HARU”

・子ども支援の変遷～震災直後から現在までのHARUの取り組み～

関 奏子、小林奎太

NPO法人キッズドア

・東日本大震災からみる子どもの貧困～学習支援というアプローチ～

宇野あかり、錦織広樹

陸前高田応援サークルぽかぽか

・子ども×大学生in陸前高田

鈴木優里、大西花林

インクストーンズ

・教育学部生からみた被災地の子どもたち

沼津大嗣、桐原朋哉

福興youth

・いわきで出会った子どもたち～学生ボランティアにできることは何か?～

中澤 恵、大庭佳乃

基礎ゼミ・展開ゼミ継続サークルたなぼた

・私たちが学んだ被災地の子どもを取り囲む環境

千葉柚紀、飯田 司、根来怜菜



2 出前授業

仙台白百合学園高等学校で出前授業を行った。

1 第1回出前授業

開催日 2017年10月25日 16:30～18:00

内容 震災をテーマとするインタビュー調査実施にあたって、インタビュー調査の心構え、準備、インフォームドコンセント、質問の組み立て方等についてスーパーヴァイズを行った。

参加者 仙台白百合学園高等学校1年生6名、
教員1名

2 第2回出前授業

開催日 2017年11月9日 16:45～18:15

内容 震災をテーマとするインタビュー調査について、データのまとめ方や発表用ポスターの作成についてスーパーヴァイズを行った。

参加者 仙台白百合学園高等学校1年生6名、
教員1名

1 関連自治体・団体への訪問

| | | | | | |
|-------|-------|-----------------------|--------|--------------------|--------------------------------|
| 平成29年 | 4月21日 | 宮城県東部児童相談所 | 10月17日 | 南三陸町保健福祉課 健康増進係 | |
| | 5月10日 | 大槌町教育委員会 | 平成30年 | 1月 4日 | 宮城県 里親支援センター けやき |
| | 5月10日 | 児童家庭支援センター大洋 | | 3月13日 | 七ヶ浜町健康増進課 保健指導係 |
| | 5月11日 | 陸前高田市教育委員会 | | 3月19日 | 南三陸町 総合ケアセンター 保健福祉課健康増進係 |
| | 5月23日 | 宮城県東部保健福祉事務所 | | 3月29日 | 宮城県教育庁義務教育課 |
| | 6月10日 | あしなが育英会 神戸レインボーハウス | | | |
| | 7月31日 | 宮城県教育庁 教育企画室企画班 | | | |
| | 7月31日 | 宮城県教育庁高校教育課 教育指導班 | | | |

2 支援室来室対応・情報交換

| | | | | |
|-------|-------|----------------|-------|--------------------|
| 平成29年 | 5月7日 | 公益財団法人みちのく未来基金 | 7月31日 | 宮城県東部保健福祉事務所 |
| | 5月30日 | あしなが育英会東北事務所 | 11月1日 | 公益財団法人 みちのく未来基金 |
| | 7月18日 | あしなが育英会東北事務所 | | |

3 講演会・研修会における情報収集

| | | | |
|-------|--------|---|-----------|
| 平成29年 | 6月11日 | 日本心理臨床学会主催「第3回被災者支援研修会」 | (加藤・一條出席) |
| | 11月10日 | あしなが育英会主催「神戸から東北へ レインボーハウスから見た子どもたち」講演会 | (一條出席) |

1 学会発表等

1 一條玲香・大堀和子・押野晶子・平井美弥・加藤道代
『東日本大震災の子ども支援—“S-チル”5年間の相談を概観して—』
第71回東北心理学会 2017年7月15～16日 於:尚絅学院大学

2 Reika ICHIJO・Michiyo KATO
“Investigation of the Children's Support Office's Efforts to Support Mental Healing”
World Bosai Forum/IDRC 2017 in Sendai Nov.25-28,2017

3 一條玲香・加藤道代
『東日本大震災をきっかけに里親となった親族の心境』
第29回日本発達心理学会 2018年3月23～25日 於:東北大学

2 論文

1 一條玲香・加藤道代(2017).
震災後のこころの相談支援活動に関する文献を概観して
東北大学大学院教育学研究科研究年報,66(1), 225-242

2 Reika ICHIJO・Michiyo KATO(2018).
Support for Children after the Great East Japan Earthquake:
Trends and Characteristics in Consultations Conducted by the Support Office
for Children Affected by the 2011 Disaster, Annual Bulletin,
Graduate School of Education, Tohoku University,vol.4, 37-54

3 震災こころの支援研究会（D研）の主催

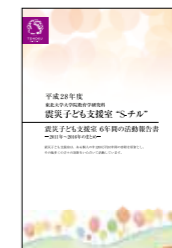
震災におけるメンタルヘルスや心理支援について考える研究会。平成29年度は18回の研究会を開催した。

1 報道関係・来室対応

平成29年11月13日 NHK仙台放送局
平成29年12月22日 NHK製作局
平成30年2月3日 河北新報社 2018年3月18日掲載「風化東日本大震災7年」

2 出版物・報告書

1 平成28年度
震災子ども支援室
6年間の活動報告書
—2011年～2016年のまとめ—



2 シンポジウム報告書
「東日本大震災後の
子どもたちへの支援」
～高校生・大学生が見つめる
被災地の現在～
(平成29年12月9日(土)実施)
報告書作成と配布



3 東北大学オープンキャンパスに出展
(平成29年7月25、26日)



4 “S-チル”ニュースレターの作成と配布



5 ホームページの刷新、フェイスブック更新

6 震災子ども支援室各チラシの刷新・配布



2011年度から、これまで作成している各種報告書を、希望される方には郵送することが可能です。ご希望の冊子(複数可)、ご氏名、ご郵送先、ご所属をお書き添えの上、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

問い合わせ先

東北大学大学院教育学研究科 震災子ども支援室
〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1 E-mailアドレス s.children@sed.tohoku.ac.jp

編集者

加藤 道代 東北大学大学院教育学研究科教授
震災子ども支援室室長

一條 玲香 震災子ども支援室特任助教

平井 美弥 震災子ども支援室主任相談員

押野 晶子 震災子ども支援室相談員

大堀 和子 震災子ども支援室相談員

平成29年度
東北大学大学院教育学研究科
震災子ども支援室“S-チル”
年次報告書

2018年6月1日

発行者 東北大学大学院教育学研究科 震災子ども支援室
代表者 加藤 道代
住 所 仙台市青葉区川内27-1
Tel/Fax 022-795-3263
E-mail s.children@sed.tohoku.ac.jp

